# 2023年度
# 活　動　報　告　書

## みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

# 目次

令和５年度報告書発刊に当たって（巻頭言）　・・・・2

研修の受け入れ１　・・・・3
　視察研修実績
研修の受け入れ２　・・・・5
　大学・高校との連携体制構築
研修の受け入れ３　・・・・7
　　水島フィールドワーク　（JICA）
岡山大学連携　・・・・9
岡山県立倉敷古城池高校プラットフォーム　・・・・11
　（倉敷古城池高校の活動紹介）
テラスミーテイング TOKIWA　・・・・15
高校生クルーズ定例化　・・・・21
観光関係者とのつながり　・・・・22
「水島の観光の可能性」を考える　・・・・23
コンソーシアムパンフレット改正　・・・・28
みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動交流会　・・・・31
役員体制　・・・・33

# 令和５年度報告書発刊に当たって（巻頭言）

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

会長　　古川　明

持続可能な地域づくりを担う人材育成を目的に、2018 年 3 月に設立された「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」は、今年 3 月で丸 6 年を迎えることができました。
昨年は、初代会長を 5 年間お務めくださった萩原邦章氏の退任に伴い、副会長職にあった古川が会長に就くと同時に、岡山経済同友会代表幹事の梶谷俊介氏（岡山トヨタ（株）社長）を副会長に、また地元の有力者の方々を新たに委員としてお迎えするなどして、組織体制の強化を図ることにより、順調に活動を進めています。

こうした流れの中で、2022 年度から執り行われることになった修学旅行の受入れや研修、加えて、観光庁の「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」を実施したことなどが基盤となって、今年度は、次のような活動を実施することができました。

１：各種研修受入の実施
２：地域サロンの開催
３：岡山大学地域連携型授業の実施
４：古城池高校の地域連携に根差した探究活動の支援

上記、各事業の実施により、活動基盤の整備が進むと共に、活動の幅も拡大しつつあり、水島を学びのフィールドにするという活動は、多くの方々を巻き込みながら着実にその歩を進めています。
次年度は、上記活動に加え、国内屈指の国際港を抱える水島に関わりのある外国人との交流機会を探りながら、新たなステップに向け、精力的に活動を続けて行きたいと思っていますので、引き続きご支援ご協力のほど宜しく御願い致します。

## 研修の受け入れ　1

視察研修実績

みずしま財団　藤原園子

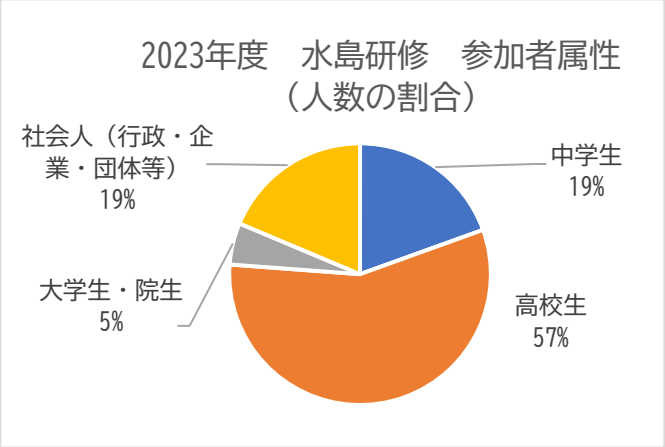
今年度はのべ 16 団体のフィールドワークを受け入れ、700 名を超える方に水島の学びを体験いただきました。どのような方が水島に来られているかというと、中学生の修学旅行、高校生の修学旅行、大学生の授業・ゼミ旅行の利用、社会人の観光を含めた研修等です。今年度一番多かったのは県外の高校生の修学旅行の受入でした。

今年度初めて、地元水島の 7 つの金融機関の職員研修を受け入れました。水島信用金庫さんが窓口になっていただき、水島で働く方が水島の歴史、現在のまちづくりの動向を学ぶ、そのことを通じて「水島を好きになってもらう」ことを目的としました。座学に加えて、コンビナートクルーズを体験し、職場を超えて交流されているご様子がありました。

県外の行政職員・民間企業の方の受入も、初めて実施することができ、今年度は企業の方の研修があったことが特徴といえます。

【2023 年度実績（参加者属性）】

| | |
|---|---|
| 中学生 | 140 名 |
| 高校生 | 407 名 |
| 大学生・院生 | 37 名 |
| 社会人（行政・企業・団体等） | 134 名 |
| 合計 | 718 名 |




【2023 年度実績（詳細）】

| | 実施日 | 連絡者（代理店等） | 団体名 | 人数 | 概要（先方からの要望・プラン等） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5/26 | 東武トップツアーズ滋賀支店 | 大津市立青山中学校 | 140 | 修学旅行、SDGs を学んでいる。 |
| 2 | 7/10 | 岡山理科大学附属高校 | 岡山理科大学附属高校国際バカロレアコース | 10 | 亀島山地下工場見学と事前学習（ZOOM） |
| 3 | 7/19 | 水島信用金庫 | 水島の 7 金融機関 | 26 | 職員研修として、クルーズ希望。水島のことがわかるように。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 8/9 | 岡山県観光連盟 | 日本旅行等 | 5 | 教育旅行関係者に水島の学びを説明 |
| 5 | 8/25 | 倉敷市観光コンベンションビューロー | 倉敷市観光コンベンションビューロー | 5 | 水島の学び |
| 6 | 8/26 | 日本環境教育学会 | 日本環境教育学会鳥取大会エクスカーション | 12 | 水島のことを学びたい、クルーズ希望 |
| 7 | 9/13 | JTB 福島支店 | 郡山北工業高校 | 280 | 修学旅行の事前学習をZOOM で。SDGs、公害の歴史と環境再生のまちづくり・高校生の関わり |
| 8 | 9/29 | 岡山大学 | 岡山大学実践型社会連携授業 | 9 | テーマを「水島で働く、暮らす」に |
| 9 | 10/5 | エモックエンタープライズ（東京） | 開智望中等教育学校（茨城県） | 75 | テーマ「環境・自然科学的研究の手法を学ぶ」、水質調査体験 |
| 10 | 10/11 | 岡山大学地域総合研究センター | 下関市（官民合同視察） | 30 | 視察依頼、テーマ「観光とモビリティ」、クルーズ |
| 11 | 11/19 | JICA 中国 | 留学生 | 8 | クルーズ、異文化交流会 |
| 12 | 12/3 | 岡山大学大学院社会文化学研究科 | 岡山大学文学部日本史研究室希望者 | 20 | 資料交流館見学希望、クルーズ希望 |
| 13 | 12/5 | 近畿日本ツーリスト静岡支店 | 清流館高校 | 42 | 1 クラス担当 |
| 14 | 12/19 | 県内観光関係者 | みずしま滞在型環境学習コンソーシアム | 10 | 亀島山地下工場、萩原工業 |
| 15 | 3/8 | 水島通船 | 水島通船／みずしま滞在型環境学習コンソーシアム | 21 | 古城池生のガイドによるコンビナートクルーズ（練習・関係者） |
| 16 | 3/23 | 水島通船 | 水島通船／みずしま滞在型環境学習コンソーシアム | 25 | 古城池生のガイドによるコンビナートクルーズ（一般募集） |
| | 合計 | | | 718 | のべ 16 団体 |

## 研修の受け入れ　2

大学・高校との連携体制構築

・研修受入実態

2023 年度の研修ツアーの受け入れとしては、16 団体、718 名であった。

その内訳として、受け入れ先では、「中学・高校の修学旅行等（事前学習のみの 1 件含む）」が 5 件で 547 名、「大学生・大学院生・留学生等の研修ツアー」が 3 件で 37 名、「社会人（企業・行政等）の研修ツアー」が 3 件で 68 名、その他「コンソーシアム主催のツアー」が 5 件で 66 名であった。

研修内容のテーマとしては、「水島コンビナートクルーズ」が 7 件、「倉敷市環境学習センター・環境監視センターでのレクチャー」が 6 件、「まちづくり」が 4 件、「亀島山地下工場見学」が 3 件、「コンビナートの工場見学（萩原工業、水島最終処分場）」が 3 件、「子どもの居場所づくり」が 3 件、「開発と災害・防災」が 1 件であった（重複含む）。今年度は、事前学習の要望が 2 件あり、ZOOM を使って「亀島山地下工場の見学」、「水島の開発と公害からの再生・まちづくり」についてのレクチャーを行った。また、コースとしての受け入れではないものも含めて、すべてのプログラムで「公害からの再生」について触れた。

**・研修内容の傾向**

受け入れ先の内訳は、昨年度と大きな変化はなかったが、「企業・行政の研修ツアー」で、地元の金融機関の職員研修を初めて実現したり、観光関係者向けにツアーを実施したことで、観光・企業研修分野での新たな展開につながることが期待できる 1 年となった。

研修の要望としては、「水島コンビナートクルーズ」が最も多く、7 件実施したが、そのほとんどが「大学・学会・留学生」と「社会人」であった。乗船定員（約 25 名）の制約や、傭船代がかかるなどはあるが、水島と言えばコンビナートは大きな資源であり、それを海上から見るという非日常的な体験は、やはり重要なコンテンツであることを改めて認識させられた。一方で「倉敷市環境学習センター・環境監視センター」も 6 件実施しており、こちらは「中学・高校の修学旅行等」での活用がメインであった。みずしま財団による「公害からの再生について」のレクチャーや、行政による環境政策・環境監視の仕組みや COD パックテストを使った水質調査の実体験など、水島での環境問題の基礎を学ぶという点で、こちらも重要なコンテンツであると言える。

**・今後の展望**

今年度から、ZOOM を使った事前学習にも対応しており、学校等からの問題解決学習（PBL）への要望が高まっていることから、今後 ZOOM をメインにした事前・事後学習を含めたプログラムに対応できる体制を整えることで、更なる顧客の獲得につながるものと考える。また、「子どもの居場所づくり」のプログラムでは、こども食堂ミソラ♪の寄附付きカレーを食べながらの懇談や、「水島コンビナートクルーズ」の高校生によるガイドのブラッシュアップなど、内容をより充実させる取り組みも進んでいる。今後新たなプログラムを追加することと合わせて、研修ツアーの受け入れをさらに拡充することを目指していきたい。

## 研修の受け入れ　3

### 「水島フィールドワーク」

（地域理解プログラム　瀬戸内海で学ぶ、産業と暮らしと環境）実施報告！

JICA 中国　平田由香利

2020 年から始まった地域理解プログラム/水島ツアーは今年で 4 回目！2023 年秋に来日、岡山大学に入学した新たな 3 名の長期研修員も含め、今回は計 8 名の長期研修員が参加しました。

福田副理事長より講義

まず向かった先は、あさがおギャラリー。ここは、水島地域で起きた公害の歴史を伝えていくため昨年 10 月にオープンした場所。本プログラムに毎年ご協力いただいている（公財）水島地域環境再生財団（以下、みずしま財団）副理事長の福田憲一氏より、水島で起きた公害について、昔と今の写真を比較しながら説明がありました。経済成長を求めて水島に大規模なコンビナートを作り、その結果、農業、漁業、環境、そして人体への被害が発生。人々が苦しんだ歴史を繰り返さない為に、次の世代に綺麗な青空を受け継ぐ為に、地域一帯となって、より健康で暮らしやすい地域づくりの為に活動されている事を学びました。

**豊かな日本に貧困！？**

続いて、水島でこども食堂を運営されている「こども食堂ミソラ♪（ハルハウス）」の井上正貴代表よりお話を伺いました。冒頭「皆さん日本は豊かな国だと思いますか？」という質問に、長期研修員はもちろんと頷く人ばかり。現状は教室で 7 人に 1 人は貧困層の子供がいる事、十分に食事を食べれない、そして安全安心な居場所がない子供がいる事を知り、研修員は衝撃を受けていました。豊かさを求めすぎて大事な事が欠けていく…それは人との繋がりや相手を思いやる心。井上代表からは、コミュニティの繋がりや子供達の居場所を作る為、様々なイベント企画や取り組みをされている事をお話しいただきました。その活動に賛同し、「是非自分たちに協力出来る事があれば参加したい！」と発言する研修員も。お昼は井上代表手作りのハラルカレーを食べながら、地元の高校生と一緒に交流をしました。高校生に将来の夢を聞いたり、各国の食文化の話をしたりと、和気あいあいと楽しい時間を過

ごしました。

井上代表手作りのハラルカレー

みんなで集合写真♪

**海から見るコンビナート**

プログラム最後は、船に乗って海からコンビナートを見学！みずしま滞在型環境学習コンソーシアム会長の古川明氏より、迫力のある大きなタンクや重機、そして海底トンネルについて、各企業の取り組み等も交えながら説明がありました。この日は少し海が荒れていて揺れ動く船でしたが、研修員は船から見るコンビナートに興味津々の様子でした。プログラム最後には、本プログラムを企画、同行してくださったみずしま滞在型環境学習コンソーシアム事務局のみずしま財団理事・研究員　塩飽敏史氏より、経済成長を求めすぎると何が起きるか、環境、地球、人との繋がりについてもう一度考える機会になればとお話がありました。

揺れ動く船からコンビナート見学！

## 岡山大学との連携

岡山大学　岩淵泰

岡山大学の教養科目「倉敷水島まちづくり論」では、「水島で暮らし、働くということ」をテーマにし、水島商店街の変遷を学んだ。みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの支援を受けた。参加人数は、６名であった。本年度は、水島商店街で暮らし、営む方からお話しをうかがった。

９月２９日、まちづくりフィールドワークを行った。午前中は、ミズシマ・パークマネジメント Labo 代表の古川明氏が、栄町商店街のまちあるき解説を行った。午後からは、みずしま財団の林美帆氏のコーディネートによる地域の方のお話しを聞いた。ホートク印刷の野呂知恵氏からは、「水島ガッツリマップ」のデザインや商店街の変化について、また、NPO 法人彩（IRODORI）の佐藤将一氏からは、多機能型営業所の運営や障がい者の自立支援の取り組みをうかがった。倉敷市移住定住推進室からは、移住制度についての説明を受けた。学生たちの感想を以下に紹介する。

『水島商店街を歩いて、新しくおしゃれな店舗があって、昼食時には多くの人が食事をとっていたことは驚きだった。ただ、町並みは夜の街という雰囲気があり、昼間に行こうとは思いにくいのかと思った。』

『古い住宅がところどころ残っていたのはとても面白いと思ったのでさらに活用できるのではないかと考えた。また、公園の多さは水島の特色だとも感じた。』

『水島は思ったよりも都会で、病院、公園、鉄道が充実していてこの時代に人口も減っていないというのはとてもすごいことだと思った。また、町の将来を真剣に考えている人が多くいるということもよい材料だと思った。これから水島が発展していくためには人と人のつながり、関わりと情報の発信が必要だと考えた。』

『私は小さいころから水島の街に行っていたが、水島の歴史については全く知らなかった。水島に流れている八間川の名前も知らなかったし、その川のそばで食物が作られていたこと、家がたくさん建っていたこと、商店街がライトが光って今の岡山市のような賑わいであったこと。そして今、その時の水島には完全に戻れなくても少しでも発展していくため位チームが作られており、様々なイベントが計画されていることなど、水島についてたくさんのことを教えていただいた。』

『障がい者支援についてのお話も印象に残った。障がい者支援施設は、障がい者が社会に出られるように支援する場所であると、勝手に固定観念を持っていた。しかし佐藤さんがしている支援の方法は一味違い、社会に出て一人でやっていけるようになるまで支援をするという方法に驚いた。今まで障がい者についてなんとなくわかったつもりでいたが、何が重要かを考えられていなかった。そこを考えてきちんと一人で立てるように支援していくというのはありそうでなかった方法で、ちゃんと一人一人を見ているような感じがした。』

参加学生ひとりひとりが、水島の特徴を考え、講師から多くの学びを得た。

古川明氏(みずしま滞在型環境学習コンソーシアム会長)によるまちあるきセミナー

野呂智恵氏(ホートク印刷)を講師に
迎えてのトークセッション
コーディネーター:林美帆氏
(みずしま財団)

佐藤将一氏(NPO 法人彩)を講師に迎えてのトークセッション

## 岡山県立倉敷古城池高校プラットフォーム

水島連携 2023～水島プラットフォームを母体とする倉敷古城池高校の活動紹介～

＜フードロス削減の取組＞

こども食堂での活動を通して、食品が余っている「フードロス」と食べ物が足りない「子どもの貧困」の問題に矛盾を感じるようになりました。そこで、まずは身近な「フードロス」問題に目を向けることにしました。「フードロス」削減を目指していくためには、地域から意識を変えて行く必要があると思い、近隣の小学校でフードロスの出前講座を今までに５回行いました。また、子どもたちに、より深くフードロスについて考え実践してもらうために、公民館で料理教室を行いました。これらの活動を東京で開催され全国の高校生が集まる「高校生ボランティアアワード 2023」で発表し特別賞を受賞。副賞としてアメリカで発表する機会を得、１月にロサンゼルスで発表をしてきました。地域だけでなく世界に向けて発信できたことを嬉しく思います。

＜テラスミーティング TOKIWA ‘24＞

地域について学んでいく中で、水島の人口減少や水島商店街で若者離れにより、シャッターが降りている店が増加しているという現状を知りました。水島商店街では最盛期に 250 店舗あったのに比べ、現在では 50 店舗ほどに減少しています。そこで水島にまた人が集まり活気を取り戻してほしい、より多くの人が水島を訪れ水島を知ってほしいと思い、水島地域活性化や街づくりのために古城池高校生と同校 OB、水島在住の若者たちの連携のもとに 3 月 16 日に実施する「テラスミーティング TOKIWA ‘24（昭和レトロ）」本番に向けて、7 月から月に一度集まり準備を進めてきました。世代間交流を目的に、大人にとっての懐かしさ、若者にとっての憧れを兼ね備えた昭和レトロを味わってもら

うため、今年のテーマを「昭和」にしました。飲食、音楽、写真、遊びの４つのコーナーに分かれて昭和レトロを体感してもらい、駄菓子、綿あめやラムネなどを販売したり、昔ながらの情景を背景に仮装をしてチェキで撮影やけん玉など昔遊びなどを体験してもらいました。また古城池高校茶道部によるお茶も味わってもらいました。

＜真庭バイオマスツアー＞

環境に優しいバイオマス発電を行っている真庭市で再生可能エネルギーについて学びました。ツアーでは発電に必要な木材を保管する集積場や実際に発電を行っている発電所を訪れ、その後真庭市役所で意見交換を行いました。発電には今まで利用されず、森林に放置されていた木材や地域の住民の方々が不要となった木材などを利用して発電が行われていました。
発電所で発電された電力は、現在真庭市役所などの公共施設で使用されており、公共施設の電力はすべてバイオマス発電所で発電した電力を利用していることが分かりました。
真庭市では、地域資源を利用した循環型地域社会を実現するとともに、地球温暖化などの環境問題の対策を行っていることを学びました。

＜聞き書き＞

「聞き書き」は、高校生が人生の先輩方に「生き方」を聞きにいくというものです。マタギなどの伝統的な生活を今の高校生に伝えて、後世に残す役割もあります。毎年違ったテーマを設定し、今年のテーマは「幸せ」でした。聞き書きには、訪ねて、聞いて、起こして、製本するという作業工程があり、特に大変なのが書き起こしという作業です。聞かせてもらった話を録音して、その録音を聞きながら一言一句違わずにパソコンで文字に起こすのが一番時間がかかって一番根気がいりました。薬局で薬剤師をされている木曽さん、大地の再生をされている杉本さん、コーヒー店を経営されている岡部さんにお話を伺いました。聞き書きに参加して、普段は話をする機会のないような方たちや他人に質問したり話したりするのでめちゃくちゃ緊張しました。しかし時間が経つにつれて笑顔が見られるようになったり話が弾んだりして、とても楽しかったです。また、自分の人生について考えるよい機会になりました。

＜水島・藤戸ツアー＞

水島の魅力や藤戸で起きた源平合戦を知ってもらい水島に興味を持ってもらうためにバス＆クルーズツアーを行いました。バスツアーでは、バスで水島を回って自分たちでコンビナートの歴史などを解説したり、街歩きをして高校生目線のおすすめのお店やイベントを紹介したりしました。実際に合戦が行われた藤戸寺や西明院を訪れるというとてもいい経験もできました。また、倉敷科学センターで源平合戦中に起こった金環日食をプラネタリウムで再現していただきました。クルーズツアーでは海から水島コンビナートを見ながら詳しく解説する予定でしたが、強風のため船が欠航となったため、旧鷲羽山スカイラインからコンビナートを見て、行う予定だったガイドをしました。そして、その活動を 12 月に岡山県探究フォーラムで発表しました。探究フォーラムと

いう校外での発表やその原稿作成をて新しい課題なども見つかり、とてもいい経験になりました。

＜福田公民館との連携＞

福田公民館と連携をとって絵画、書道などの講座を開催しました。保護者の送迎無しで経済的負担もほとんどなく気軽に参加してもらうことを目標に、企画から打合せ、準備、当日の実施まで美術部や書道部の生徒が主体となって行いました。美術部はうちわを作りました。書道部は、高校生が一対一での指導を行うため、まず小学生とミニゲームや絵しりとりをしました。初対面だったので少しでも子どもたちにリラックスしてもらえるよう積極的にコミュニケーションを取ることを心がけました。小学生の子どもたちと作品の鑑賞をする時間には、多くの子どもたちが「最初より上手に書けた！」と言ってくれたので、その笑顔を見たときに改めて大きな達成感を得ることができました。当日は地域の方々もたくさん集まってくださり、みんなで地域交流を深めることができました。

# テラスミーティング TOKIWA

**玄馬 久那愛**

「テラスミーティング」とは、ＭＰＭラボ（ミズシマ・パークマネジメント　Lab.）主催で、2019 年以降、仁科百貨店本店の跡地を利用し、同地が、水島内外を問わず、多くの人の集える場所（街のリビング）となることを願って実施されてきた「水島パーキングデー」の後を継ぎ、今年３月から始まった行事である。その背景には、９月の第３金曜日に世界で同時開催される水島パーキングデーの行われる時期は、ここ数年、温暖化の影響もあって残暑が非常に厳しいこと、また、３月に移行することによって、より多くの地元倉敷古城池高校の生徒や地域の若者達が参加しやすい環境になることがある。

以上の流れの中で、テラスミーティング初年に当たる今年は、昭和の雰囲気が醸成されている水島商店街において、水島内外の人々に水島×昭和を感じ、楽しんでもらうために近年の流行りである「昭和レトロ」をテーマとしている。

## 【活動報告】

**《当日までの活動》**

2024 年から初めて、倉敷古城池高校の生徒数名と水島在住の若者を中心に 2023 年の 7 月 22 日を皮切りにテラスミーティング TOKIWA のために活動を行った。今年のテーマは、「昭和」であるため、まず、昭和とはどういう時代なのか、昭和レトロの雰囲気を醸し出すために、どのような趣向を凝らせばよいのかを学ぶために 9 月 24 日に岡山県瀬戸内市長船町にある「日本一のだがし売場」を訪れた。だがし売場では、昔懐かしの駄菓子が数多く売っているだけでなく、昔ながらの駄菓子屋を彷彿とさせる建造物があった。訪れるだけでは、昭和に流行したものなどが詳しくは分からないため、各自、テラスミーティングのために展示するものや提供するものを調べることも行った。そして、調べたことを皆で持ち寄り、吟味した結果、飲食コーナーでは手作りのサンドウィッチやプリンアラモードなどを販売すること、遊びコーナーでは、輪投げやけん玉で昔の遊びを体験してもらうこと、音楽コーナーでは、昭和のヒットソングを流すこと、写真コーナーでは、昭和の服を着てチェキで写真を撮ったり、家電の変遷の写真を並べたりすることが決定した。

《テラスミーティング当日》

3 月 16 日の 13:00～17:00 の間で開催された。水島工業高校の移動式茶室(月待庵)が無事に完成し、テラスミーティング自体の準備も開催までに終えることが出来た。開催当初から水島内外の人が多く訪れた。訪れた人同士で交流している姿が見られた。また、飲食コーナーで買ったものを食べて満足している人々の姿や展示コーナーでの展示物を見て昔を懐かしんでいる人々の姿も見られた。年配の方だけでなく、子どもも遊びコーナーに夢中になって遊んだり、家電の変遷の写真を見て驚いたりしていた。また、チェキでの写真撮影も多くの方がポーズをとったり、変装したりして楽しんでいた。

それぞれのコーナーの高校生は、自分たちの仕事を一生懸命遂行していた。大人に対して物怖じすることなく、「いらっしゃいませ」「輪投げをしてみませんか」と声掛けをして集客をしたり、子どもが訪れた時は積極的に関わり、遊び方を教えたりしていた。また、音楽コーナーを担当している人が空いた時間に飲食コーナーを手助けをするなど、生徒同士の積極的な関わり合いも見られた。

会場で収集した感想では、「どのコーナーも楽しかった」「懐かしい気持ちになった」「どの年代も楽しめるようなイベントで良かった」と良いコメントが多く寄せられた。

## 【運営者の感想】

倉敷古城池高校の生徒

◆　3 年　大塚さん

月 1 回という少ない時間の中でそれぞれが責任をもってしていてすごいと思った。私は受験で参加出来なかった時があり、両立することが難しかったが、なんとか最後の本番まで途中で抜けたりせずできて安心している。本番では、チェキで昭和の服を着たお客さんを撮る係をして、最初はみんな恥ずかしがっていたが、撮り終わりチェキを渡すと必ず笑顔になり楽しかったと言ってもらいとても嬉しく感じた。しかし、参加者同士の交流が少なかったなどの改善点もたくさん自分の中で出た。それらをまとめて次回に繋げたいと思う。

◆　3 年　守谷さん

準備の時に高校生らしい新しい案を出せたり、大人だけに準備を任せることなく一人一

人が課題をもって取り組めていたりしたのはとても良かったです。その反面当日では準備が間に合わなかったり、忙しい人とそうでない人ができたりと改善するべき点は多いのかなと感じました。自分の持ち場じゃなくても忙しそうだから助けにいこうだったり、次は何が必要なのか自分にできることはなにか考えたりしながら動くことが出来ていたらより良くなってたのかなと思います。個々で改善すべきところはあると思いますが、多くの方に楽しんでもらえ、また水島を盛り上げられたことはとても意味あるものだったと思います。この経験を活かしていくとともに、これからもこのような活動を続けていきたいと思いました。一年間ありがとうございました。お疲れ様です。

◆　２年　谷口さん(音楽コーナー)

私は会場全体で流す音楽を選ぶ係を担当した。最初はカラオケをする予定だったけれど、機材を借りるのにとても費用がかかるという理由からカラオケは中止になった。私は昭和の終わり頃のヒット曲しか知らなかったけど、年齢が高い方もたくさんご来場されるだろうという先生からのアドバイスで 1960 年代から 80 年代の広い年代の曲を選曲することにした。また、1 時間ごとに 1960 年代、1970 年代、1980 年代の曲と流す曲を変えて時代の移り変わりを感じられるようにした。スピーカーに流している曲の年代がわかるよう紙に書いて貼るなど工夫した。多くの世代の方が楽しめる選曲になったと思う。

当日の朝は食品チームの準備が思ったより大変そうだったのでサンドウィッチを作る手伝いをした。音楽係は準備があまり必要なかった。イベントが始まってからは遊び係の手伝いをしていたが、多くの方が流れている曲を口ずさんだり、懐かしいねと言ってくださっていた。カラオケはできなかったけど会場に音楽が流れているのといないのとでは大きく雰囲気が変わると思うので、昭和の音楽を流して良かったと思った。

◆　２年　亀和さん(飲食コーナー)

飲食の中でも加熱する時には申請が必要だったり、買い出しで欲しいものや欲しい量がなく、試作の段階で自分たちが思っている以上に見た目が質素になってしまったりしたなど飲食を提供する側としてたくさんの難しいことがたくさんあるなと思いました。駄菓子屋ではさまざまな懐かしの駄菓子がたくさんあってすごかったです。飲食の買い出しもそこで行いました。

当日はお釣りの小銭がないなどハプニングがあったけど来てくれた人が喜んでくれてよかったです。テラスミーティングを通して思ったことはただしたいという気持ちだけでは現実にすることは難しいということがたくさんあると思いました。ですが、自分のしたいことが形になっていくのはとても面白かったです。今までありがとうございました！

◆　２年　國定さん(飲食コーナー)

準備期間での苦労は参加人数や今までの状況を知らなくて初めてのことでなにも分から

なくて困ったことです。昭和がテーマでしたが自分が生まれたのは平成で昭和のことをあまり知らなかったのでその点も困りました。仕入れるお菓子や飲み物、作るサンドイッチやプリンアラモードの数など分量やお金の計算をするのが苦労しました。

当日は思ったより最初にお客さんが沢山来て提供を急いでしないといけなくて焦りました。サンドイッチやプリンは手作りで持ちが悪いので作ったらすぐに提供できるように頑張りました。綿菓子は一つ作るのに時間がかかるのでなるべくすばやくお客さんに提供することを心がけて個体差ができないように頑張りました。また、お客さんが少ないと感じた時は「いらっしゃいませ！」と呼びかけして人が来やすい雰囲気作りをしました。

駄菓子屋訪問ではパッケージが昭和な雰囲気の食べ物や懐かしい食べものを率先して選ぶようにしました。今までありがとうございました！

◆　２年　徳永さん(飲食コーナー)

最初の昭和のイメージは駄菓子、黒電話があるというような抽象的なイメージであまり知らなかった。しかし、この活動により昭和について深く関わることが出来魅力を知ることが出来た。

準備では、物の値段でなるべく費用を抑えるように試行錯誤が大変だった。どんな駄菓子が喜ばれるのか、昭和と言えばどんなものなのか知識ゼロから始まったので昭和世代の人に個人的に聞いたりして考えた。

本番では、想像していたよりも商品の準備、注文から渡すまでなど初めてのことばかりで忙しかった。しかし、来てくれた人が美味しかったや昭和を思い出すようなもので楽しいなど言って下さり、達成感を感じることが出来た。

◆　２年　西林さん(飲食コーナー)

打ち合わせの際、昭和に対してのイメージを膨らませ、どんなものを作りあげたいか考えるのがとても大変で、楽しかったです。準備を通して１番大変だったことは、本番を想定してどの食材をどれくらい買うか計算したことです。テラスミーティング自体が初めてだったので、どのくらいの人が来るのか想像するのが難しかったです。

駄菓子屋訪問で昭和のイメージを深く持つことができました。当日は準備の時間が足りず、料理をするのがギリギリになってしまったり、気温の関係でおしるこが売れなかったりと、いろいろ大変なことがありましたが、みんなが楽しんでいる様子を見ることができたのでよかったなと思いました。

私はチラシも担当したのですが、昭和レトロの世界をなるべく表現するためにフォントを何通りか試したり、色味に気をつけたりするなど、試行錯誤を重ねてなんとか作りあげることができました。またみんなと、水島の魅力を伝えられる活動をしたいなと改めて感じました。今までありがとうございました！

◆　2年　(飲食コーナー)

準備を甘く見ていた部分があり、当日下準備に手間取ってしまったことや、綿菓子機で綿菓子を作るのに綿菓子を作る練習ができず、準備不足のまま提供する形になってしまったことがあり、準備をもう少し丁寧にするべきだったと感じました。打ち合わせでは、自分から進んで発言したりすることが出来ずに終わってしまったことが心残りです。

駄菓子屋を訪れた時、色々な世代の方々がおり、駄菓子屋は地元の人々にとって懐かしい場所であり、子どもたちにとっては楽しい思い出を作る場所でもあると感じました。

私は当日、飲食コーナーを担当しました。飲食物の提供に関する衛生管理や安全面にも注意し、手袋を装着するなど気をつけました。サンドウィッチの作りでは予期せぬ問題に直面することがありました。例えば、食材の不足や下準備に思ったより時間がかかるなどが挙げられます。急な食材の調達や、下準備は、友達の協力を得て解決することが出来ました。開始時間より5分くらい遅れたけど、無事に販売を開始することか出来て安心しました。来てくれた方々が私たちの作った食事を「美味しい」と言ってくれた時に達成感を感じました。

活動を通じて、昭和レトロや水島の問題点を学びました。テラスミーティングのようなイベントがあると、地域の方々が集まり話し合いをする機会が設けられそのイベントがもっと広がり大きくなると地域活性化に繋がるのではないかと考えました。

◆　2年　小川さん

決まった役割はありませんでしたが、本番では写真コーナーのお手伝いができてよかったです。

チラシを中学校や小学校に配りに行くことが初めてのことで、とても良い経験になりました。

展示のパネルにするはずだった木の板(?)が不安定だったのは不安でしたが学校からパネルを貸し出してくれて安心しました。「昭和」というテーマは昭和が長いので難しかったですが、親戚や家族も協力してくれて、昭和の頃のものを借りられたのでよかったです。本番では子どもたちが楽しそうに遊びコーナーで遊んだり、綿菓子を頬張ったり、写真を嬉しそうに撮ったりしてくれていて、達成感を感じました。大変なことは多かったですが何よりも楽しかったです。1年間ありがとうございました。

水島在住の若者

◆　大学2年　玄馬さん(写真コーナー)

撮影用の衣装を考えるにあたって、着替えに関して制約が多く、どのような衣装が適切なのか探すのに苦労した。昭和といっても私達、平成生まれが思う昭和と昭和生まれ、昭和育ちの方が思う昭和では齟齬が生じるため、昭和っぽいという雰囲気で決める形となった。参考として色々検索したり、昭和の頃から続く店の方に話を聞いたりもしたが、昭和

は幅広く、難しいテーマだと思った。だが、調べていくうちに、昭和の奥深さを感じ、より昭和の世界について浸ってみたいと思うようになった。

本番当日、チェキで楽しそうに写真を撮る人がたくさんいてとても微笑ましかった。また、展示コーナーを見て会話をする人もいて、なつかしさを感じてもらえてうれしかった。もう少し、積極的に関わって、当時の話を聞けるような雰囲気をつくっていけばよかったと反省した。打ち合わせに関しても改善すべきことが多いため、来年に活かしていく。

この活動を通じてもっと親や年上の方と会話をして昭和について勉強していきたい。また、来年も同じように水島内外の人が交流できる行事に携わり、今回、学んだことを活かしていきたい。

# 高校生クルーズ定例化について

みずしま滞在型コンソーシアム
事務局長　林美帆

2022 年度に観光庁事業で実施した「水島コンビナートクルーズ」を、継続的に定例化していくために、水島通船株式会社と相談を行った。その結果、水島通船株式会社を主催とし、企画協力をみずしま滞在型環境学習コンソーシアムが行う形式で実施していくことが合意された。

また、焼肉をセットとしたツアーとするための方策を、水島の地域おこし協力隊の村上雄一さんと相談し、村上さんが作成した「水島焼肉マップ」とコラボレーションをすることになった。「水島焼肉マップ」に掲載されている一部店舗で使用できる焼肉チケットを作成してツアーに組み込むこととなった。

コンビナートクルーズの案内役は、岡山県立倉敷古城池高校の探究学習と連携するために、同校のコーディネート役でもあるコンソーシアム会長の古川明さんが調整し、長期休暇時期に開催することとなった。

2024 年 3 月 8 日に予行演習を行い、観客は非公式に水島のまちづくり関係者、観光関係者（倉敷市観光課、倉敷観光コンベンションビューロー、岡山県観光連盟)、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム役員が乗り込んで実施した。

2024 年 3 月 23 日に本番を行い、観客は定員一杯の実施となった。

2024 年度は夏休みと春休みの実施で 4 回ほど実施して、定例化を定着させていきたい。

# 観光関係者とのつながり

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
事務局長　林美帆

　みずしま滞在型環境学習コンソーシアムのプログラムをよりブラッシュアップしていくために、観光関係者との懇談を重ねることになった。観光関係者とは、倉敷市観光課・倉敷観光コンベンションビューローである。
倉敷観光コンベンションビューローには、修学旅行の誘致のメニューに水島を加えていただき、ホームページにも掲載してもらった。また、観光業者を招待した研修会の際に、水島を案内することもできた。
倉敷市観光課とは、「水島焼肉マップ」および「夜景マップ」の作成過程を共有してもらい、水島を倉敷市の観光政策に位置付けてもらうための呼びかけを行うこととなった。
岡山観光連盟とは、パンブレットのブラッシュアップに向けて具体的な提案をいただき、事前事後学習をセットとしたツアー料金の設定を行うことになった。
また、具体的にツアー内容を知ってもらうために、観光関係者向けに 2023 年 12 月 19 日に「亀島山地下工場＆萩原工業見学ツアー」を実施した。2024 年 3 月 8 日の水島コンビナートクルーズの予行演習においても参加を呼びかけ、ツアーを体験してもらうにいたった。
観光関係者からの意見を参考に、2024 年度のツアーを良きものにしていきたい。

# 「水島の観光の可能性」を考える

除本理史（大阪公立大学教授）

2023 年度みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動交流会において、筆者と当ゼミ生から「水島の観光の可能性」に関する話題提供をさせていただいた。内容は当日の PowerPoint 資料をご参照いただきたいが、今回お話する機会を与えていただいた経緯は次の通りである。

大阪市立大学／大阪公立大学・除本ゼミ（環境政策論ゼミ）は、2022 年度、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムが採択された観光庁事業と連携する形で、活動を行ってきた。2022 年 9 月 11～12 日の 2 日間、コンソーシアムに受け入れていただき、水島でゼミ合宿を行うことができた。2 日目には、まちづくりに取り組む人たちとワークショップを開催し、観光案内板の設置場所 8 か所を選定した。それを受けて 2022 年度後期には、学生・院生が観光案内板の説明文案の執筆や写真の選定を行った。

2023 年度には、2 名の学生が水島をテーマに卒業論文を執筆した。今回、参加させていただいた寺坂舜星君は『水島の「困難な過去」と観光政策――水俣と比較しながら倉敷市の役割を考える』というタイトルで卒論を書き、活動交流会でそのエッセンス（結論部分）を報告させていただいた。

水島の経験してきた「困難な過去」は、教育や観光まちづくりの資源として活かせる十分なポテンシャルをもっている。当ゼミも継続的に足を運び、学ばせていただきたい。

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム
2023年度活動交流会

# 「困難な過去」の学びとツーリズム

2024年3月16日　水島公民館
よけもとまさふみ
除本理史（大阪公立大学）

除本理史・佐無田光（2020）『きみのまちに未来はあるか？「根っこ」から地域をつくる』岩波ジュニア新書。

1

## 経緯と自己紹介

- 大阪市立大学／大阪公立大学除本ゼミ（環境政策論ゼミ）は、2022年度、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの採択された**観光庁事業と連携**し、活動を行ってきた。2022年9月11～12日の2日間、水島でゼミ合宿を行い、2日目にまちづくりに取り組む人たちとワークショップを開催、観光案内板の設置場所8か所を選定。2022年度後期には、学生・院生が観光案内板の説明文案の執筆と写真の選定を行った。
- 2023年度には2名の学生が水島をテーマに卒業論文を執筆。寺坂の論文タイトルは『水島の「困難な過去」と観光政策――水俣と比較しながら倉敷市の役割を考える』（のちほど結論部分を報告）

## 概要

- 現代の観光政策と「困難な過去」の学び
  - ーモノからコトへ：ストーリー構築の重要性
  - ー「困難な過去」も「地域の価値」を構成する
- 公害学習とツーリズムを結びつける
  - ー水島での取り組みの重要性

## 着地型観光

- 旅行者を**受け入れる側の地域（着地）側**がその地域でのおすすめ観光資源を基にした観光商 品や体験プログラムを企画・運営する形態です。**地域性の強い観光資源**を基にプランを作ることにより、多様化 する旅行者のニーズに対応することが可能となり、**地域の活性化**にも貢献することになります。

（出所：「着地型観光商品 開発・販路開拓事例 」中小企業基盤整備機構）

- 単に「観光資源がある」だけでなく、「**複数の観光資源をつなぐストーリー**」が必要

4

## 商品化の例）国による「ストーリー化」⇒観光商品

### 『日本遺産（Japan Heritage）』とは

日本遺産は、講演や映像などから文化財・自然等を保護する世界遺産とは異なり、
地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定し、
ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、
国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図るため文化庁が2015年に創設した制度です。
各ストーリーが広域に渡って展開されているため、
ひとつのストーリーにたくさんの見どころがあることが魅力です。

https://www.hankyu-travel.com/japan-heritage/

## 「モノづくり」から「コトづくり」へ pp157-160

- 20世紀の経済：規格化された画一的な商品が大量に生産・消費され、それにともなって地域の固有性も失われていった。
- しかし現代では、「モノ」の量的な豊かさよりも、それによって得られる「知識」や心温まる「感動」といった無形の要素を重視。
- 何ら新しいものを生産しなくても、すでにあるものに対して「意味」を与えるだけで価値が高まるとすると、経済活動の様相は一変する。現代では「モノづくり」だけでなく、「コトづくり」（ストーリー・解釈の生産）が重要になっている。

## あるものを使う地域のリノベーション

## 「困難な過去」から「地域の価値」へ

pp168-170

- 地域の歴史には「困難な過去」も含まれる＝“地域の個性”を構成する
- ヒロシマ・ナガサキ、水俣などの公害事件、原発事故など –いわゆる「ダークツーリズム」との関連

## 水俣「もやい直し」の意義

（除本・佐無田2020：57-59）

■公害による地域社会の崩壊を乗り越え、地域の再生をめざすため、当時の吉井正澄市長は「もやい直し」という標語をかかげた⇒水俣病の「前面化」、地域固有の価値

〔地域の〕個性とは、他をもって代えることのできないその地域における価値です。ほかのことで代替できない価値です。・・・たった一つ、水俣にしかない個性があります。それが公害の原点と言われる水俣病ですね。・・・これこそが水俣の個性だと思います。

ところが、この個性は今まで水俣市民を苦しめてきた、すごく強烈なマイナスの個性だったんですね。これがまちづくりに役立つのかとだいぶ批判されました。しかし私は、逆だと思っているんですよ。（吉井正澄・元水俣市長）

10

## 「みずしま地域カフェ」と水島メモリーズ

- みずしま財団は2021年度から，公害資料館をつくる活動の一環として，地球環境基金の助成を受け「みずしま地域カフェ」の取り組みをスタート
- 地域の歴史を掘り起こす
- 複数人で、地域の人たちにヒアリング
- 現在→過去→未来　でストーリー化（参加者全員でチェック）
- 過去の写真を探す（倉敷市歴史資料整備室、地元の写真家など）
- 小冊子『水島メモリーズ』にまとめて、配布

まとめ：
- モノからコトへ：　ストーリー構築／解釈の提示が重要に
- 「困難な過去」をまちづくり・地域振興に活かす

「困難な過去」も「地域の価値」を構成する

- 水島の取り組みへの注目が広がっている。

cf:　除本理史・林美帆・藤原園子（2023）「公害学習とツーリズム：岡山県倉敷市水島地区の取り組み事例」『経営研究』第74巻第2号

みずしま滞在型環境学習
コンソーシアム
2023年度活動交流会

卒論報告

# 水島の「困難な過去」と観光政策

ー水俣と比較しながら倉敷市の役割を考えるー

2024年3月16日
水島公民館
てらさか　しゅんせい
寺坂　舜星
（大阪市立大学商学部4回生）

13

## 自己紹介・概要

- 岡山市出身です！
  水島でいろんな人の地元愛に接しました！

（以下、概要）

- 「困難な過去」（とくに公害）を学ぶ拠点：水俣と水島の比較
- 水島のポテンシャル
- 倉敷市への政策提言

14

## 「困難な過去」（とくに公害）を学ぶ拠点：水俣と水島の比較

- **水俣**

公的施設（国、県、市）：　国立水俣病情報センター／熊本県環境センター／水俣市立水俣病資料館

民間施設：　相思社「水俣病歴史考証館」

- **水島**

民間施設：　みずしま資料交流館

⇒　公的施設がない

15

## 水島のポテンシャル1

- 井出明（金沢大学）は、自身の訪問体験を踏まえ、水島の「困難な過去」がもつ観光資源としてのポテンシャルを高く評価⇒　課題はそれを活かしきれていないこと
- 水俣との比較：

| | 水島 | 水俣 |
|---|---|---|
| 人口 | 約９万人 | 約２万２千人 |
| 観光客数(H29) | 319,000 人 | 510,000 人 |
| 年間教育旅行者数 | 544 | 2,914 |
| 民間の資料館年間訪問者数 | 1000 程度 | 2000 程度 |
| 市立の資料館年間訪問者数 | なし | 約４万人 |

16

## 水島のポテンシャル2

- 仮定　①　人口規模に比例して、水島の市立公害資料館（ができた場合）にもそれだけ訪問者がくる　（←誘致する側の人的リソースが人口に比例して増えると想定する）

②　訪問者がコンソーシアムのツアーの一環として、市立公害資料館を利用する

- 水俣市立資料館は年間約4万人が来館（コロナ前、2017年）

$$4\text{万人} \times \frac{\text{水島の人口9万人}}{\text{水俣の人口2.2万人}} = \text{約16万人}$$

- 10人／グループとすると　1.6万グループ
- 研修費6万円／グループとすると　**9.6億円**

の経済効果（この10分の1でも約1億円となる）

＋　訪問者の近隣での宿泊・消費を考えるとさらに大

17

## 倉敷市への政策提言 2つの柱

**①「倉敷市観光振興プログラム」において、水島の観光振興を積極的に位置づけること**

「倉敷市観光振興プログラム（第2期）」の第3章（5つの観光振興戦略を説明した章）において、水島という地名は一度も出てこない

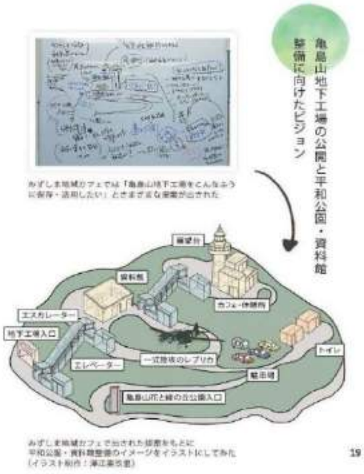
**②　倉敷市が水島地区において公害・環境学習、平和学習の拠点となる施設を整備すること**

水島には「困難な過去」を学べる公的施設がない（公共施設の複合化で遊休する施設の利用も？）

亀島山地下工場を平和学習に利用できるよう、安全対策を施しつつ保存・公開を検討すべきではないか（平和資料館の提案もある）

18

亀島山地下工場の
保存・公開と
平和資料館の提案
『水島メモリーズ 亀島山
地下工場編』
より




## まとめ

- 以上2つの柱を実施することにより、水島の「困難な過去」がもつ観光ポテンシャルを顕在化させ、「**持続可能な観光先進都市・倉敷**」の実現に資することができると考える。

　ー　水島の資源を活用した、環境・平和・防災の学びは倉敷市の重視する「**SDGsの推進**」「**日本遺産の活用**」とも深く関わる

20

## コンソーシアムパンフレット改正

観光関係者との懇談を経て、パンフレットの改正および、ツアー内容の見直し、料金の改正を行うこととなった。
ツアーは６コースから８コースに増加、事前・事後学習の対応、ツアー案内人の紹介などを検討し、パンフレットを作成した。

新しいツアーは下記の通り

| | | |
|---|---|---|
| 環境 | 公害からの再生を学ぶコース | みずしま資料交流館 |
| 開発 | 開発と地域社会について学ぶコース | 旧中山家住宅 |
| 平和 | 平和と多文化共生について学ぶコース | 亀島山地下工場 |
| 災害 | 開発と災害・防災を学ぶコース | 千人塚・板敷水門 |
| 工業 | 環境問題と産業の変化を学ぶコース | クルーズ、萩原工業 |
| まちづくり | まちづくりに取り組む人たちに会い学ぶコース | まちあるき |
| 福祉 | 子どもの居場所づくりを学ぶコース | ハルハウス |
| 環境対策 | 環境監視の仕組みを学ぶコース | 倉敷市環境監視センター |

新しい料金は下記の通り

| | |
|---|---|
| 受け入れ費用 | ● 40 人まで 半日:70,000 円/一日:80,000 円<br>● 40 人以上 半日:1 人 2,000 円×人数/一日:2,200 円×人数 |
| 所要時間 | 1 コース 2.5 時間程度 組み合わせ自由 |
| 最少催行人数 | 1 名 |
| 最大催行人数 | 1 コース 40 人(コースの組み合わせにより、最大 200 人程度可能。要相談) |
| 事前・事後学習 | 各回 15,000 円 |
| その他 | 施設使用料・バス代・乗船代については、別途実費が必要となります。 |

## 料金について

| | |
|---|---|
| 受け入れ費用 | ● 40人まで　半日：70,000円／一日：80,000円<br>● 40人以上　半日：1人2,000円×人数／一日：2,200円×人数 |
| 所要時間 | 1コース2.5時間程度　組み合わせ自由 |
| 最少催行人数 | 1名 |
| 最大催行人数 | 1コース40人（コースの組み合わせにより、最大200人程度可能。要相談） |
| 事前・事後学習 | 各回15,000円 |
| その他 | 施設使用料・バス代・乗船代については、別途実費が必要となります。 |

## 近隣の研修の提案

## 問い合わせ先・事務局

受付対応時間｜平日8:30-17:00

公益財団法人 水島地域環境再生財団（みずしま財団）
〒712-8033 岡山県倉敷市水島東栄町11-12
https://sdgs.mizushima-f.or.jp/
TEL 080-3897-3441　FAX 086-446-4620
MAIL comizushima@gmail.com

2024年4月作成

## 岡山県倉敷市水島地域の紹介

水島は、日本の歴史の中で重要な役割を果たしてきた土地です。明治・大正時代には、高梁川の改修が行われ、アジア・太平洋戦争中には軍需工場が進出しました。戦後には、地域開発が進み、水島港の開発と埋め立てによって水島臨海工業地帯（水島コンビナート）が形成されました。この地域は、新産業都市として発展し、岡山県を農業県から工業県へと変貌させる原動力となりました。

さらに、水島では空襲や公害なども経験しており、様々な試練を乗り越えてきました。しかし、その歴史的な経緯から、開発と環境保全の足跡をたどることができる貴重な場所となっています。水島は近代の息吹が凝縮された街であり、その歴史を通じて、地域の発展や変化を垣間見ることができるでしょう。

## みずしま滞在型環境学習コンソーシアムとは

「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」は、倉敷市、倉敷商工会議所、岡山大学、地元企業、そしてまちづくり団体などが協力し、水島を平和・公害・環境学習のフィールドとして活用するための円卓組織として、2018年に設立されました。このコンソーシアムは、「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成に向けて活動しており、水島の環境や歴史的背景を活かし、地域社会の発展と環境保全に貢献しています。

## 私たちが案内します！

古川 明
MPMラボ
みずしま滞在型環境学習コンソーシアム会長

塩飽敏史
みずしま財団

福田憲一
みずしま財団

藤原園子
みずしま財団

井上正貴
パルバウス

吉田淳一
萩原工業株式会社

村田秀石
亀島山地下工場を語りつぐ会

吉田弘実
亀島山地下工場を語りつぐ会

岡山県立
倉敷古城池高校生



## 水島だから学べること

「持続可能な開発目標」（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで決められた、2030年までによりよい世界をめざすための国際目標です。「持続可能」とは、環境などが健全な状態に維持されることであり、そのためによりよい社会発展や開発のあり方が模索されているのです。

水島は過去のさまざまな時代の開発を経験してきた場所です。水島には、「経済」「社会」「環境」の関係について深く考えさせられる素材が豊富に揃っています。「持続可能な開発」を実現するためには、これらの要素をバランスよく考慮し、総合的な視点から取り組むことが不可欠です。

近代の開発には、良い面と悪い面の両方が存在します。例えば、明治末～大正期の高梁川の河川改修は、水害を軽減する目的で行われましたが、他方で、2018年の西日本豪雨における真備の水害の遠因をつくったともいわれます。旧川となった旧東高梁川には水島の街が築かれ、地先には軍需工場がつくられました。空襲を避けるために建設された亀島山地下工場は、岡山県最大級の戦争遺跡となっています。軍関工場は空襲を受けましたが、戦後の水島臨海工業地帯の基盤にもなりました。工場建設は地域経済の成長をもたらしましたが、他方で公害問題を引き起こしました。その対策として、環境監視センターも設置されています。こうした地域開発の両面を見ることで、物事を多角的に考える視点を養うことができます。

# 水島の過去から学ぶ

環境
## 公害からの再生を学ぶコース

■見学先
みずしま資料交流館、鴨が辻展望台、亀島山など

■概要
水島の地域開発と、それに伴う公害の歴史、倉敷公害訴訟後の環境再生の取り組みについて学びます。鴨が辻または亀島山から、水島の街と隣接するコンビナートを眺望し、公害の被害と開発について考えます。

民俗
## 開発と地域社会について学ぶコース

■見学先
旧中山家住宅

■概要
連島には大正3～4年頃に建設された旧中山家住宅があります。久原財閥の番頭だった中山訓次郎の邸宅で、水島コンビナートの企業誘致について議論をした場所でもあります。古い町並みが残る連島から、開発と地域社会の関わりを考えます。

平和
## 平和と多文化共生について学ぶコース

■見学先
亀島山地下工場

■概要
水島には岡山県最大級の戦争遺跡・亀島山地下工場があります。軍用機の製作所が空襲を避けるために作られた秘密の工場です。工場を掘ったのは朝鮮人労働者です。戦争遺跡を体感し、平和と人権の大切さを学びます。

災害
## 開発と災害・防災を学ぶコース

■見学先
板敷水門、千人塚

■概要
高梁川の河口部に位置する倉敷は、新田開発が活発でした。新田開発は干拓によって行われ、その傾門となった板敷水門（日本遺産）が残されています。また干拓地ゆえにおこった、台風の高潮による明治17年の水害の無縁仏を埋葬した千人塚を訪問します。

# 水島の現在から学ぶ

工業
## 環境問題と産業の変化を学ぶコース

■見学先
萩原工業株式会社または水島港（コンビナートクルーズ）

■概要
もともとはイグサの産地として有名だった倉敷。イグサを使った花ござ産業から、石油製品であるブルーシート製造に転換した萩原工業株式会社は水島の変化を体現しています。また、コンビナートクルーズを展開することも可能です。

まちづくり
## まちづくりに取り組む人たちに会い学ぶコース

■見学先
水島地域のまちあるき

■概要
水島には、元気に街づくりに取り組んでいる人がたくさんいます。商店街は以前に比べれば少し寂しくなっていますが、まちを再び活性化するためにはどうしたらよいかの課題に直面しています。まちを歩きながら、地元の人たちと一緒に考えましょう。

福祉
## 子どもの居場所づくりを学ぶコース

■見学先
ハルハウス（水島こども食堂ミソラ♪）

■概要
貧困や障がいなど、人生で困って孤立する場面に遭遇することは少なくありません。そのような状態になった時に、救いの手となるのが「居場所」です。子ども食堂の活動から、助け合いの力を学びます。

環境対策
## 環境監視の仕組みを学ぶコース

■見学先
倉敷市環境学習センター、倉敷市環境監視センター

■概要
行政による環境対策の一つとして、環境の監視があります。コンビナートを有する倉敷では、水島地域を中心に常時監視を行い、大気汚染の状況を把握しています。持続可能な開発のための、行政の役割を学びます。

# みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動交流会

日時：2024 年 3 月 16 日（土）9：30-12：00
場所：水島公民館第 1 会議室
参加者：50 名

タイムスケジュール

| | |
|---|---|
| 9：30-9：35 | 挨拶　古川会長 |
| 9：35-9：45 | 2023 年度コンソーシアム実績報告（受入数、役員体制）　林 |
| 9：45-10：00 | 下関市受け入れ　意義について　三村先生 |
| 10：00-10：20 | 卒論発表「水島の観光の可能性について」大阪公立大学　寺坂舜星<br>大阪公立大学　除本先生 |
| 10：20-10：25 | 休憩 |
| 10：25-11：15 | 倉敷古城池高校生　探求学習発表<br>○水島・藤戸ツアー<br>○海ごみ・川ごみ、真庭バイオマスツアー<br>○亀島山・源平合戦<br>○フードロスの取組<br>○公民館講座（「健康に大きく関わるフレイル」）<br>○聞き書き |
| 11：15-11：45 | グループワーク　水島の観光の可能性 |
| 11：45-11：55 | グループワークを受けて　コメント　三宅さん |
| 11：55-12：00 | 最後の挨拶　梶谷副会長 |

活動報告会では、1 年間の活動内容の共有、当コンソーシアムを活用した学習の発表（大阪公立大学生の卒論発表、岡山県立倉敷古城池高校生の探求学習）がおこなわれ、グループワークで共有を行った。
ツアー参加者も年々増えていること、地域での学習活動も先輩たちの活動からの積み上げが見えてきていることから、水島での学びがより深く広く展開されている様子を共有する機会となった。

私達の目標
フードロスを削減し、
子どもたちのhappyであふれる地域を目指す

聞き書き

海岸調査とゴミ調査

## 役員体制

みずしま滞在型環境学習コンソーシアムは 2018 年に設立したが、スタート時よりツアー内容も充実し、定期的にツアーの受け入れを実施できるようになってきた。また、パーキングデーや水島学講座、地域サロンの開催など、水島の地域内での学びの蓄積やつながりを作ることができてきた。2023 年度は役員の改選時となっており、これらの積み上げにそった形で役員改選を行った。

2023 年 8 月現在

| | | |
|---|---|---|
| 会長 | 古川　明 | ミズシマ・パークマネジメントＬａｂ代表 |
| 副会長 | 梶谷　俊介 | 岡山トヨタ代表取締役社長、岡山経済同友会代表幹事 |
| 副会長 | 三村　聡 | 岡山大学副学長、大学院社会文化科学研究科教授 |
| 委員 | 石田　篤史 | 株式会社イシダ工務店代表取締役 |
| 委員 | 三澤　宏之 | 岡山県立倉敷古城池高等学校校長 |
| 委員 | 横溝　博之 | 水島信用金庫常務理事 |
| 委員 | 中濱　崇 | 倉敷商工会議所事務局長 |
| 委員 | 仁科　正己 | 仁科百貨店代表取締役社長 |
| 委員 | 吉田　淳一 | 萩原工業株式会社取締役執行役員 |
| 委員 | 三宅　康裕 | 倉敷市企画財政局企画財政部企画経営室次長 |
| 委員 | 岡　浩二 | 水島まちづくり協議会会長 |
| 委員 | 尾﨑　浩子 | 水島おかみさん会会長 |
| 事務局長 | 林　美帆 | 公益財団法人水島地域環境再生財団研究員 |
| 監事 | 大久保　憲作 | 一般社団法人高梁川流域学校　相談役、<br>倉敷木材株式会社代表取締役会長 |
| 監事 | 中平　徹也 | 公益財団法人水島地域環境再生財団評議員、<br>株式会社廃棄物工学研究所 客員研究員 |
| 顧問 | 萩原　邦章 | 萩原工業株式会社相談役、一般社団法人岡山経済同友会 |
| 顧問 | 伊東　香織 | 倉敷市長 |
| 顧問 | 井上　峰一 | 倉敷商工会議所会頭、株式会社いのうえ代表取締役社長、<br>学校法人関西学園関西高等学校理事長 |
| 顧問 | 那須　保友 | 岡山大学長 |
| 事務局 | 岩淵　泰 | 岡山大学地域総合研究センター　副センター長・准教授 |
| 事務局 | 錫木　晋二郎 | 倉敷市　企画財政局　企画財政部　企画経営室 |
| 事務局 | 合田　貴司 | 倉敷市　企画財政局　企画財政部　企画経営室 |
| 事務局 | 福田　憲一 | 公益財団法人水島地域環境再生財団代表理事（副理事長） |
| 事務局 | 藤原　園子 | 公益財団法人水島地域環境再生財団　事務局長 |
| 事務局 | 塩飽　敏史 | 公益財団法人水島地域環境再生財団　理事<br>一般社団法人高梁川流域学校　監事 |

2024 年 3 月作成

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム事務局